

令和 2 年ホヤ類調査結果速報 No. 4

令和 2 年 10 月 20 日

北海道立総合研究機構函館水産試験場

※この速報は函館水試HPでも見ることができます。

【アドレス：<http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/hakodate/>】

10月16日に渡島管内八雲地区において、耳吊ホタテガイ付着物の調査を行いました。

結果概要

- 耳吊りホタテガイ上のヨーロッパザラボヤの付着個体数は減少しました（図1、図3上）。付着個体数は、ホタテガイ1枚あたり31.9個体で、過去5ヶ年の平均よりやや少ないです（表1、図3上）。
- 5mm未満の微小な個体の占める割合は先月よりさらに低くなり、耳吊りホタテガイに新たに付着する個体は少なくなっていると考えられます（図2）。
- 平均サイズはやや小さく、付着重量も過去5ヶ年の平均より低い値となっています（図3下）。成熟の目安となる25mm以上の個体の割合は約3割でした（図2）。
- 今後、付着重量の増加および耳吊り貝上のヨーロッパザラボヤの繁殖が懸念されることから、状況に応じて、貝洗い等の対応を進めて下さい。

図1 ホタテガイに付着するヨーロッパザラボヤ 令和2年10月16日 八雲地区



問い合わせ先：函館水産試験場調査研究部 金森・夏池
TEL:0138-83-2893 FAX:0138-83-2849

※本調査および情報配信は特定非営利活動法人水産業・漁村活性化推進機構から委託された令和2年度ザラボヤ被害防止ネットワーク構築委託事業で実施しています。

1：耳吊りホタテ貝付着物調査

【調査月日：10月16日、調査場所：八雲沖、採取数：上中下層 各5枚】

ホタテガイを上層、中層、下層から5枚ずつ抽出し、肉眼及び実体顕微鏡を用いて、付着物を調査しました（図1、表1）。ヨーロッパザラボヤの平均付着個体数はホタテガイ1枚あたり31.9個体、平均サイズは21.2mmでした。付着個体数は過去5ヶ年の平均（42.4個体）よりも少なく、サイズも過去5ヶ年の平均（25.7mm）を下回っています。一方、成熟の目安となる25mm以上の個体の割合は3割を越えていました（図2）。ヨーロッパザラボヤの平均付着重量はホタテガイ1枚あたり37.1gでした。先月の調査（20.0g）から1.5倍以上増重していますが、それでも過去5ヶ年の平均（88.3g）を大きく下回っています（図3下）。今後、付着個体の成長に伴い、付着重量、成熟個体の割合は増加すると見込まれます（図3下）。出荷時期（12～4月）にホタテガイ1枚あたりヨーロッパザラボヤが10個体残っているだけでも、ホタテガイを上回る重量となり、成長にも悪影響が出ます。各地区の状況に応じて、貝洗い等の対応を進めてください。

表1 付着生物調査結果（八雲地区：令和2年10月16日）

ホタテガイ1枚あたり平均付着数量	上層	中層	下層	平均
全付着物重量	112.5g	86.2g	31.1g	76.6g
ヨーロッパザラボヤ	55.4g	47.6g	8.2g	37.1g
その他	57.1g	38.7g	22.9g	39.6g
ヨーロッパザラボヤ個体数	35.6個体	42.2個体	17.8個体	31.9個体
令和元年10月(R1.10.17)の個体数	41.8個体	64.8個体	37.6個体	48.1個体
平成30年10月(H30.10.15)の個体数	19.6個体	13.8個体	20.0個体	17.8個体
平成29年10月(H29.10.18)の個体数	12.4個体	64.4個体	51.4個体	42.7個体

図2 ヨーロッパザラボヤのサイズ組成（八雲地区：令和2年6月～10月）

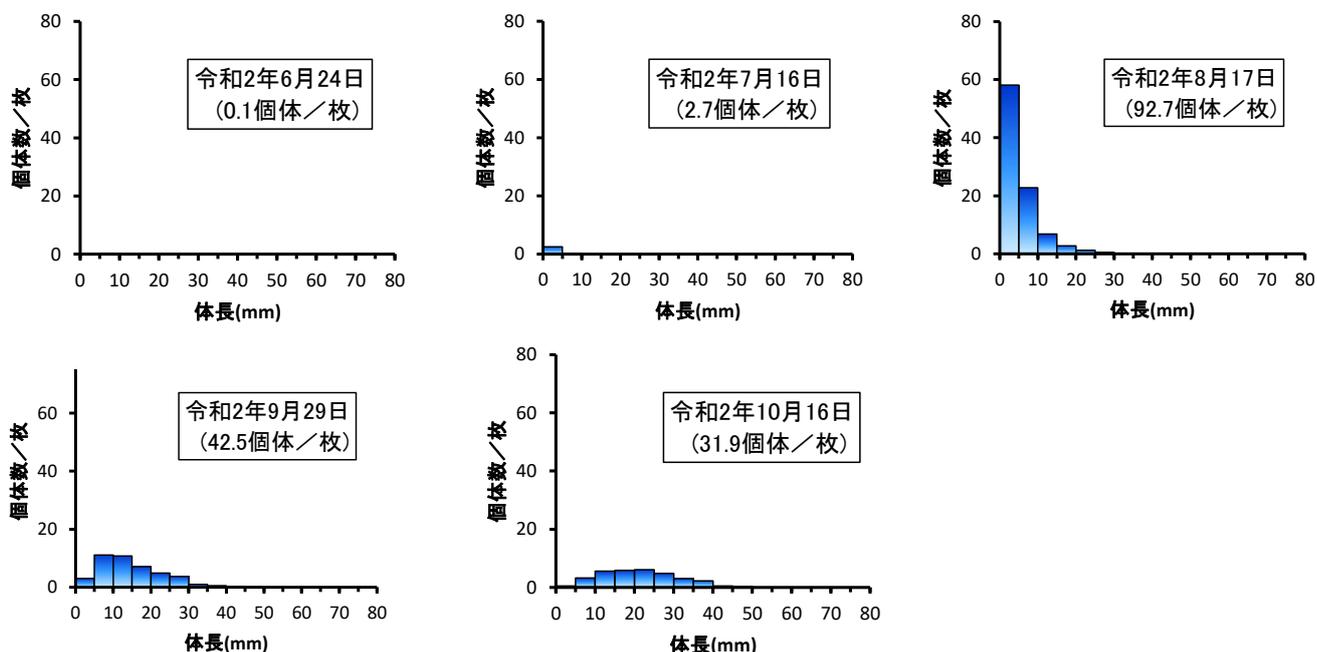
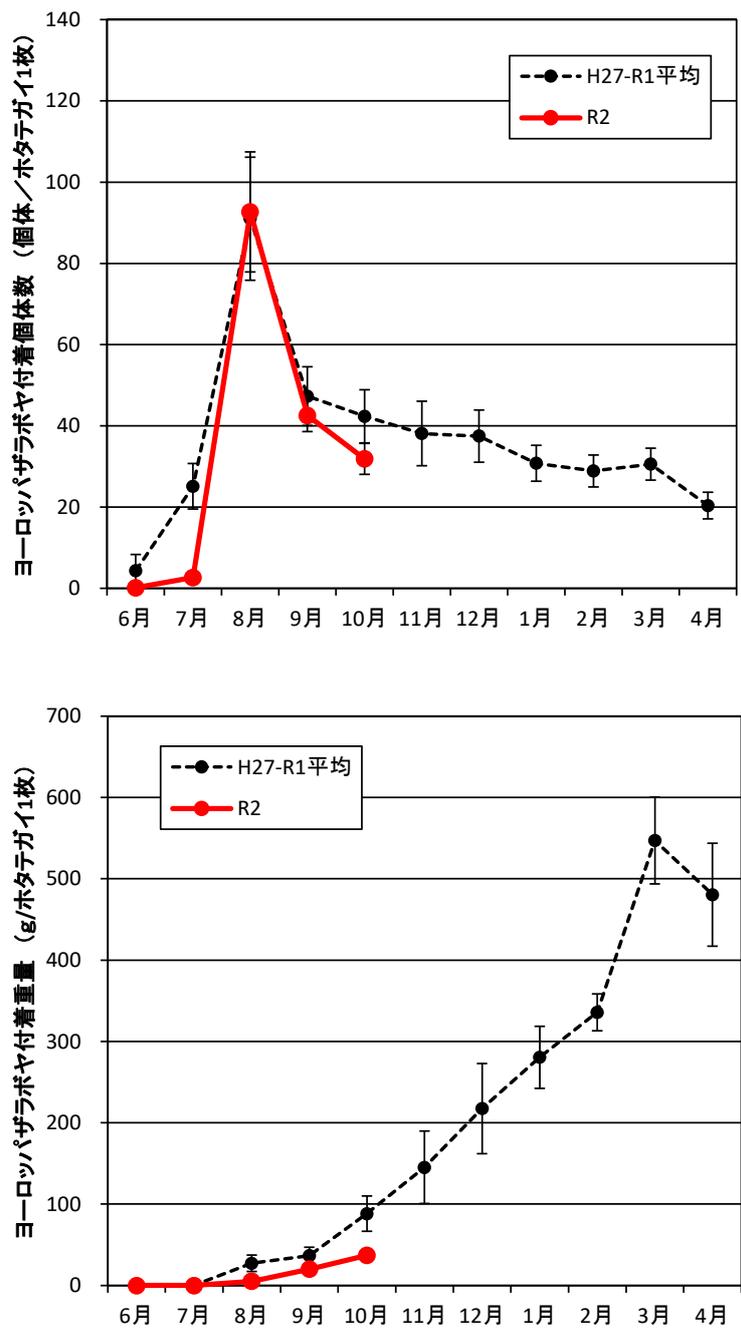


図3 ヨーロッパザラボヤ付着量の季節変化（八雲地区）



上図：ホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ付着個体数の季節変化

下図：ホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ付着重量の季節変化

各月のデータは全層（上層、中層、下層）の平均値で示しています（縦棒は標準誤差）。過去5ヶ年（H27～R1年）のデータでは、ヨーロッパザラボヤのホタテガイへの付着は7～8月が中心となっています。付着重量は10月以降、急激に増加します。過去のデータから今後は、個体数が緩やかに減少しながら、重量が増加していくと予測されます。